

特色あるフロンティアスクールの取組事例

都道府県番号	15
都道府県名	新潟県

()

・学校名及び規模

上越市立大手町小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	17
児童数	62	56	54	59	54	58	2	345	

・実践研究の概要

<p>・主題（テーマ） 確かな学力をはぐくむ教育課程の創造 ～総合的な学習の時間の学びを生かして自ら学ぶ子どもの育成～</p> <p>・主題設定の趣旨 総合的な学習の時間と各教科等との関連を図り、国語科と算数科で指導方法を工夫していくことにより、子ども一人一人が自ら学び、確かな学力を身に付けていくことができる考える。</p>
--

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

研究主題にせまるために、三つの視点を設定した。

総合的な学習の時間の学びを生かした教育課程の編成

確かな学力をはぐくむために、自らが問題にかかわり、自ら学びを進めていくよさを発揮する場を保障した教育課程にする。また、子どもの資質・能力が十分に発揮できる場や時間の保障、教師の指導体制の工夫を教育課程全体で考えていく。

総合的な学習の時間の学びと各教科等との関連の在り方

確かな学力をはぐくむために、総合的な学習の時間の学びと各教科等との関連を図ることが有効であるとする。そこで、関連を図るために、総合的な学習の時間の評価の在り方を明確にして指導に当たり、より充実した活動にしていく。また、総合的な学習の時間と各教科等との関連を図る方法を明確にしていく。

個に応じたきめ細かな指導のための指導方法の工夫・改善

各教科等の学習指導に総合的な学習の時間の学びを生かすための方法を探る。また、個に応じたきめ細かな指導を行うための指導方法を工夫していく。

() 実践研究の内容

ア 総合的な学習の時間の学びを生かした教育課程の編成

- ・総合的な学習の時間の学びを各教科や道徳、特別活動で生かして学ぶ姿を集積することから、そのよさを明らかにする。
- ・子どもの資質・能力が十分に発揮できる場や時間を工夫して実践し、よさや問題点を子どもの姿から考察する。
- ・子どもや保護者、学校評議員による学習の理解度や満足度等に関する意識調査を実施したり、学力検査等の分析を行ったりして、学校や授業の課題を明確にして来年度の教育課程編成に生かす。

イ 個に応じたきめ細かな指導のための指導方法の工夫・改善

- ・総合的な学習の時間の学びを生かした学習を展開し、よさや問題点を子どもの姿から考察する。
- ・個の課題や習熟の程度に応えるための活動展開や指導体制を工夫して実践し、個に応じたきめ細かな指導のための有効な手だてを探る。

() 成果と課題

ア 総合的な学習の時間のよさを生かした学習過程と学習改善の視点

総合的な学習の時間の学びのよさを集積・整理し（自分で問題を見付け追求する自ら考える 伝える）、それを学習過程として教科の活動展開の中に生かした。その結果、国語科と算数科で学ぶ子どもの姿から、確かな学力をはぐくんでいる姿をみとった。

- ・ 基礎的・基本的な知識や技能を習得する姿
- ・ 新たな学びを生み出す姿
- ・ 仲間とかかわり自らの学びを高める姿

そこで、どの学習においてもこの三つの姿の具現を図ることから、次の学習改善の視点を見付けた。

- ・ 自己決定の場の保障
- ・ 知識や技能を活用する体験的な活動の保障

イ 指導体制の工夫

子どもが確かな学力を身に付ける指導のためには、一人一人の子どもの理解の程度や技能の習熟の程度、追求の方法、学習課題に対する意欲等の学習の状況を適切に把握する必要がある。そこで、評価一覧表等を用いて個々の学びを細かくみとったり、ティームティーチングで個の学びを支援したりしてきた。その結果、次のことがとらえられた。

- ・ 学年や発達に応じて学習形態や指導体制を工夫していくことで学び方を習得していくことができる。

とりわけ、低学年では、課題別や方法別に教師がついて細かく指導していくことが大切である。そのことで、子どもの次の活動が明確になり、目的をもって学習するこ

とができるようになる。そして、中学年や高学年になったときには、自分の問題意識や課題に応じて自分で方法を考えながら学んでいくことができると考える。

ウ 習熟の程度に応じて学ぶ場の保障

個に応じた指導としての活動や単元展開を実践することで、次のことがとらえられた。

- ・ 課題別・方法別で学習することは、習熟の程度に応じて学ぶことができる単元構想を可能にし、有効である。

子どもが自分にできそうな課題を選んで取り組むとき、その課題は習熟の程度に応じて学ぶことと重なっていることが多い。つまり、子どもは自分の能力や適性等を見つめ、自己の習熟の程度に合わせて選択することができると思うからである。その際、子どもの側からは課題選択学習であり、教師の側からは習熟の程度に応じた指導が可能になる。

- ・ 個々の評価を確実に行うことで、習熟の程度に応じた学習をすることが可能になる。

子ども一人一人の習熟の程度を把握し、それに応じた指導・支援をしていくことにより、習熟の程度に応じたきめ細かな指導ができる。つまり、指導体制やみとりの方法を工夫していくことで、習熟の程度に応じた学習が可能になると考える。

エ 課題

- ・ 自らの問題にかかわり、自ら学びを進めていくよさを発揮する場を具体化した教育課程を編成し、実践を通して評価・改善を図る。
- ・ 習熟の程度に応じて学ぶことができる場を保障するための単元構想や指導体制を工夫する。
- ・ 学習内容の定着をみとるための評価方法を工夫し、個に応じた指導に生かす。
- ・ 学力実態を把握し、課題を明確にして指導に当たる。

() 成果の普及方策

ア 年間7回の公開校内授業研究会の実施

- ・ 授業公開と協議会を開催し、フロンティアスクールとしての研究内容を示し、参加者と意見交換した。

イ 学力向上フロンティア事業の第1年次中間発表会の実施

- ・ 授業公開（国語科、算数科、総合的な学習の時間）と協議会を開催し、研究内容を提案したり県外校も含めた多数の参加者との学力向上にかかわる協議を深めた。

エ 学校ホームページの活用

- ・ 授業公開の予告、研究内容、研究成果等を掲載し、成果普及の一助としている。

オ 上越地域学力向上推進協議会での実践発表

- ・ 研究内容を提案したり、地域内の学校と意見交換している。